

『WE ARE KAZEYOMI!』

ツアーが終わってもう2週間。まだ私の心と体を、あったかくてふんわりとした余韻が覆っています。かぜよみの民の皆さん、その後いかがお過ごしですか？

どんなツアーだったとか、楽しかった、素敵な経験だったと、今回ご覧いただけなかったみなさんにもナントカして伝えたいのですが、さっきから何度書き直してもうまく書けません。どんなことばを使っても足りないくらいの強いエネルギーが満ちあふれていました。

何年も待たせてしまったのにライブに足を運んでくれた皆さんと、私が真正面からライブに向き合えるようになったときそのビジョンと一緒に見つめてくれたバンドのメンバーやスタッフに、ただただ感謝です。本当に本当に、ありがとう。

たった3ステージ。けれど、私にとってその3回を自分なりに納得いくようなステージとしてやり遂げることは、とってもしんどい挑戦だし、不安なものでした。その理由はMCでも話した通りです。それなのに終わった瞬間、安堵感とともに溢れてきたのは「もっとやりたい」というまっすぐな欲求だったのです。

「聞いて、わたし夢があるの」という歌詞で始まる「Get No Satisfaction!」をライブの1曲目に歌ったことも私にとって大事な意味がありました。ふつうで、当たり前の毎日を積み重ねていくことが、どんなに貴重で素敵なことか気づいた「Remedy」を歌うことも。そして「カザミドリ」では、これまでこの先もずっと続いていく、自分にしか歩めない物語の一本道への覚悟を全身で奏でるような気持ちでした。

また、アルバム「かぜよみ」にたどり着くまで歌ってきたすべての楽曲に愛情と感謝を込めて、昔の曲もたくさん歌いました。昔の曲なのに古くもなっていないし、似合わなくもなっていない。もちろん10年前の私と同じようには歌えないけど、今みたいに歌えるのは今の私しかいない。過去も現在も未来も確かに繋がっていてひとつなんだということを改めて体感しました。

最終日の打ち上げの席では、明け方までバンドやスタッフみんなと素敵な笑顔と一緒に美味しいお酒を酌み交わしました。そのときの気持ちのいい空気といったら、もう最高でした。「楽しかった！」「次はいつやる？」「今度はどんなことする？」口々にそんな台詞を聞かせてくれた私の愛する身近なひとたち。私はその場にいたみんなにライブのパンフレットに寄せ書きをしてもらいました。

そのメッセージは、一生の宝物です。

ページを開くと、涙が出ちゃうくらい嬉しい言葉ばかり。この先どんなことがあっても、このノートを開けばいつだって大きな力がみなぎってきそう、とってもしんどいことばたち。みんながいてくれてよかった。出会えてよかった。今日まで歌い続けてきてよかった…。クタクタの肉体を引きずるようにして帰宅してベッドに倒れ込んだのに、気持ちはまるで飛んでいきそうなくらい爽快でした。

かぜよみの民の皆さんへ。

自分にしか歩めない、「自分」という物語の道の上を歩んでいる人をそう呼んでみることにした今回のツアーでした。いろんな偶然が重なって、たまたまあの日、あの会場で、一緒に同じ音楽に身を預けましたね。それはたった数時間の出来事だけれど、そのとき共有した何か胸の中に生き続けるのだとしたら、それは永遠と同じ意味を持つと言ってもいいのかもしれない。いつかお互いそれぞれの旅の途中で、いつかまたすれ違うときまで。そのときまで、お元気で！

WE ARE KAZEYOMI!!!

* maaya *

... THE ID